

# 結果補語をいかに教えるか

喜多田 久仁彦

## 〈提要〉

結果補語和他類補語相比,其結構“動詞+不及物動詞”或“動詞+形容詞”比較簡單,但同時補加的內容相對比較複雜多樣,使用範圍也較廣。所以對漢語學習者來說,尤其在初級階段不容易吃透,運用時難免感到重重困惑。

本文從怎樣教學生結果補語的角度出發,討論結果補語表示什麼,如何使用,以及謂語和結果補語的搭配關係,最後涉及漢語動詞在完成動作和結果的表達上有什么特征等問題。

## 0. はじめに

中国語の補語の中で,その教学或いは運用を考えると,結果補語が最も複雑で取り扱い難いという指摘がある。確かに,その構造(動詞+動詞,動詞+形容詞)の組み合わせが様でなく,例えば

看懂

听懂

\*学懂(\*:は不成立を表す)

看懂(見てわかる),听懂(聞いてわかる)が言えるのに,学懂(勉強してわかる)が成立しないという事実は,入門時の学習者にとっては難しいと言わざるをえない。

また,次の例のように,動詞+目的語として成立しない場合でも,結果補語を動詞の後ろに置くことで他動詞化し,動補構造の後ろに目的語を置くことができる。例えば,“吃肚子”,“坏肚子”がともに成立しないにも関わらず,次の文が成立すること理解しにくいことである。

孩子吃坏肚子了。(子供はお腹を壊した。)

小論では,このような結果補語の分かりにく点を取り上げ,入門時の学習者に対して,この結果補語をどのように,どこまで教えるのかということを検討したい。

## 1. 教学上の問題

ごく少数の教科書を除いて,ほぼすべての初級者用教科書には,文法の学習項目として結果補語が挙げられている。例えば,

・他换完钱了。(彼は両替し終わりました。)

・我把门关好了。(私はドアをちゃんと閉めました。)

・他没(有)写完小论文。(彼はレポートを書き終えていません。)  
 というような例を挙げるか、または、次のように結果補語となる動詞或いは形容詞を数種類列挙し、それと結びつく動詞とその動補句の例を挙げる方法で学習させる。

完	看完了	見る+終わる	見終わった
懂	听懂了	聞く+わかる	聞いて分かった
饱	吃饱了	食べる+いっぱいだ	腹いっぱい食べた
好	学好了	学ぶ+満足いく状態	ちゃんと学んだ
干净	洗干净了	洗う+清潔だ	きれいに洗った

入門者向け教科書では、結果補語の説明を「動作の結果を表す」という程度に止め、あえて深入りせず、「動詞+結果補語」に関わる形式と代表的な動詞と結果補語となる動詞や形容詞を挙げているものが大多数である。結果補語そのものが何を補足するのか、何の結果を表示するのかということに言及していることが少ない。このことから、動詞と結果補語の結合の学習が限定的であったり或いは偏りが生じることは否定できない。この傾向は、筆者が中国語専攻の学生に解かせた結果補語の練習題を通してこの傾向が明らかである。例えば、

- A) ・那个电影你看懂了吗？(あの映画は見て分かりましたか。)  
 ・你把作业做完再出去玩儿。(宿題をやり終えてから遊びに行きなさい。)  
 ・洗干净的衣服放在柜子里了。(きれいに洗った服はタンスに入れた。)  
 ・作业交给老师了。(宿題は先生に渡した。)  
 ・真糟糕，最后一道题我答错了。(しまった。最後の問題は間違えた。)
- B) ・你学会骑自行车了吗？(自転車に乗れるようになりましたか。)  
 ・那么一大桌子菜，几个人一会儿就吃光了。  
 (テーブルいっぱいの料理は、何人かであっという間にたべられてしまった。)  
 ・这几课的生词我都记住了。(この幾課分の新出単語は私はすべて覚えた。)  
 ・放心，我在家一定照顾好父母。(安心して、私は家でちゃんと両親の面倒をみます。)
- C) ・这烟有点儿潮湿，我半天才点着。(このタバコは湿気っていて、随分時間がかかってやっと火が着いた。)  
 ・那个字我查到了。(その文字は辞書で見つけた。)  
 ・我保证教会你。(君ができるよう必ず教えます。)  
 ・你要的材料都准备全了。(君が必要としていた材料はすべて揃いました。)

上記の例は、中国語を専攻し、学習歴1年半の30名の学生に対する結果補語の練習問題の一部である。問題の形式は、結果補語の部分为空欄にして選択肢より適切な語を補わせるというものである。

練習問題の正解率は高い順位にA>B>Cとなった。その理由は、A)は、結果補語となる動詞、形容詞が明確で実際の語彙的な意味として理解できる。また、初級者向け教科書に代表的な例として挙げられている。B)は、結果補語となる動詞や形容詞が実際の語彙的な意味が少々派

生的な意味に移行していることで、結果補語となる語の意味の広がりが把握できていない。C)は、結果補語となる語が実際の語彙的な意味から「成就、到達」などの抽象化されることや語自体が結果補語として使えるかどうかが不明である、と考えて良さそうである。

## 2. 結果補語は何を補足するか

結果補語は、動詞に後置され、何を補足するのかを確認しておきたい。結果補語が補足するのは次の3種ある。

### (1) 仕手の結果補足

動作の仕手の結果補足である。例えば、

- 1) 他走累了。(彼は歩き疲れた。)
- 2) 孩子长大了。(子供は成長して大きくなった。)

動作の仕手の結果を補足する場合は、次のような関係が成り立つ。

他	-	走	他	-	累
孩子	-	长	孩子	-	大

仕手の結果を補足する場合、目的語を伴うこともあるが、その目的語は、動詞の受け手であり、また補語の受け手である。例えば、

- 3) 我听懂了老师的话。(私は先生の話をして聞いて理解した。)
- |   |   |      |   |   |      |
|---|---|------|---|---|------|
| 我 | - | 听    | 我 | - | 懂    |
| 听 | - | 老师的话 | 懂 | - | 老师的话 |

仕手の結果補足には、存現文の目的語も含まれる。

- 4) 树上爬满了蚂蚁。(木に蟻がいっぱいだ。)
- |    |   |   |    |   |   |
|----|---|---|----|---|---|
| 蚂蚁 | - | 爬 | 蚂蚁 | - | 满 |
|----|---|---|----|---|---|

### (2) 受け手の結果補足

動作・行為の受け手の結果補足を表す。受け手には述語動詞の目的語、前置詞“把”の目的語、受け身文の主語が含まれる。

#### a. 述語動詞の目的語

述語動詞が表す動作によって目的語の人或いは物の結果を示す。

- 5) 他擦干净玻璃了。(彼はガラスをきれいに拭いた。)
- 6) 他一把抓住了我。(彼はギュッと私を掴んだ。)

他	-	擦	玻璃	-	干净
他	-	抓	我	-	住

目的語を伴うということから、普通、この形式の述語動詞は、他動詞であるが、次のように自動詞に結果補語が後置されることにより、目的語を伴うことができるようになる。

- 7) 他哭红了眼睛。(彼は泣いて目が赤くなった。)
- 8) 他走近床头说…(彼はベッドに近づいて言った…)
- 他 - 哭 眼睛 - 红
- 他 - 走 床头 - 近

b. 前置詞“把”の目的語

- 9) 他把信烧掉了。(彼は手紙を燃やしてしまった。)
- 10) 你别把小偷放跑。(こそ泥を逃がすな。)
- 他 - 烧 信 - 掉
- 你 - 放 小偷 - 跑

c. 受け身文の主語

- 11) 眼睛被人打伤了。(目が人にぶたれて怪我をした。)
- 12) 褥子让孩子尿湿了。(敷き布団が子供のおねしょで濡れてしまった。)
- 13) 菜都吃光了。(料理はすっかり食べられた。)
- 人 - 打 眼睛 - 伤
- 孩子 - 尿 褥子 - 湿
- [] - 吃 菜 - 光 ([] は不表示を表す)
- 13) のように意味上の受け身文の主語も同様である。

(3) 動作・行為自体の結果補足

結果補語は、動作自身の結果を補足する場合もある。結果補語となる形容詞の種類によっては、時には動作の評価を表すことがある。評価を表す場合は、普通、語気助詞“了”を伴う<sup>1)</sup>。

- 14) 我的家搬完了。(私の家は引っ越し終えた。)
- 15) 他连饭都没吃好。(彼はご飯さえちゃんと食べていない。)
- 16) 毛衣打大了。(セーターは大きく編んでしまった。)
- 搬 - 完
- 吃 - 好
- 打 - 大了

### 3. 結果補語の使用

結果補語は、どのような文法形式の中で多用されるのか、また、どのような表現と関わっているのかを確認し、中国語学習の初期段階の結果補語の教授において欠かせない点を挙げたい。

## a. 可能補語

動詞と結果補語の間に助詞“得”，“不”を挿入すると，可能補語となる。中国語では助動詞に当たる能願動詞を用いた可能表現以外にこの可能補語が多用される。特に，否定文では可能補語を使用する傾向がある。この可能補語の原形が「動詞＋結果補語」である。

しかし，留意すべき点は，すべての「動詞＋結果補語」が可能補語に転換できるという訳ではないということである。初級者用教科書にも列挙される次のような結果補語は可能補語に転換できないことはよく知られている。

17) 我住在北京。(私は北京に住んでいる。)

18) 我把礼物送给他。(私はプレゼントを彼に贈った。)

さらに，次のような結果補語も可能補語に変換できないことは経験的に知っている。

19) 他们弄错地点了。(私たちは場所を間違えた。)

20) 生活给搅乱了。(生活がかき乱された。)

安本(2009)では《中国語補語例解(日文版)》に挙げられた結果補語5454例のうち可能補語への変換が可能なのが，肯定形と否定形ともに可能及び否定形のみ可能と併せて3214例になると指摘し，さらに結果補語から可能補語への生成条件として，動詞が自主的な意味特徴を持つこと，結果補語が+評価或いは中性的評価の意味を表す，こととしている<sup>2)</sup>。

## b. “把”字文

“把”字文は前置詞“把”からなる前置詞句を副詞性修飾語とする文であり，この文の構成条件の一つとして，この文の特性として“把”の目的語に動作(述語動詞)を通して何らかの変化を発生させることを表すことから，述語は単独の動詞では成立せず，その前後に他の成分を付加しなければならない。結果補語は動作後の結果を表すことから，“把”字文の述語動詞の後ろに最もよく出現することになる。例えば，

21) 他把钱都花光了。(彼は金をすっかり使い果たした。)

22) 他把你的汽车开跑了。(彼は君の車を乗って行ってしまった。)

但し，先に挙げた可能補語は，動作の結果を表さず，主観的客観的条件がある結果や趨勢の実現を許容するかどうか，つまり「能力や条件」を表わすことから“把”字文には用いない。

## c. “被”字文

“被”字文は，述語動詞の前に受身の意味を表す前置詞“被”或いは“被”によって構成された前置詞句を副詞性修飾語とする文である。この文の主語は，普通，述語動詞の受け手であり，前置詞“被”の目的語は，普通，仕手である。受身の意味を表す“让”，“叫”，“给”を用いた文もこの“被”字文に含める。

“被”字文は，動作の受け手がある動作の作用や影響を受けることを表すことから，述語は“把”字文と同じように簡単な動詞だけでなく，その後ろに動作の完結や結果を表す成分を付加する必要

がある。このような表現の特徴から“把”字文同様に、述語の後ろに結果補語が置かれることが多い。例えば、

23) 衣服被潮水冲走了。(服が潮に流された。)

24) 小偷被警察抓住了。(あの本は彼に借りて行かれた。)

#### d. 動作の実現と結果

中国語の動詞は、結果達成の含意が希薄で、動詞が表す動作・行為が実現したとしても、動作対象が動作・行為の影響を受けているという情報は、動詞の語彙的意味には含まれていない。つまり、動作・行為の実現は結果を生む原因にはなるが、結果までは言及しないということである。この動詞の特性こそが結果補語の発達の原因とも考えることができる。

この動詞の語彙的意味として結果を含まないという点は、日本人初級学者は戸惑う点である。時態助詞“了”を付加した動詞句が多くの場合、日本語の助動詞を使って「～た」となることで、動作・行為の実現と結果を表現していると理解してしまうからである。

刘月华 (2001) 次のような文を挙げて記述している<sup>3)</sup>。

\* 虽然今天学的生词很多, 但约翰很快就全记了。

虽然今天学的生词很多, 但约翰很快就全记住了。

\* 这本书我到处托人买, 今天可买了一本。

这本书我到处托人买, 今天可买到了一本。

それぞれ上の文(「\*」が付いた文)、つまり結果補語がない文は動作“记”(覚える)、“买”(買う)という動作の実現のみを言っているにすぎないことから成立せず、下の例のように結果補語を付加しなければならないとしている。<sup>4)</sup>

この種の誤りが日本人学習者に多いことを指摘しているものに楊德峰 (2008)<sup>5)</sup> がある。次にそれを引用する。

#### 第六节 补语学习中常见的错误

##### 一、漏用结果补语

例句 误:

① 书店没有这本书, 所以我没买。

② 在泰山上我们没看日出。

正:

③ 书店没有这本书, 所以我没买到。 / 书店没有这本书, 所以我没买着。

④ 在泰山上我们没看到日出。

日本学生出现此种错误, 是受日语影响的结果。例①、例②用日语表达分别为:

本屋にはこの本がなかったので, 買えませんでした。

泰山で私たちは日の出が見ませんでした。

以上二例直译成汉语分别是“书店没有这本书, 所以我没能买”、“在泰山上我们没能看日出”,

“买”和“看”の后面都不带结果补语。正因为这样，该用结果补语他们常常没有使用。

訳：以上の2例を直訳すると「书店没有这本书，所以我没能买」と「在泰山上我们没能看出」となり，“买”，“看”の後ろに結果補語が付いていないので，日本人学習者は当然用いるべき結果補語を用いないのである。

日本語では「買えなかった」，「見えなかった」という表現は「買う」+「できる」という形式で表現することから，動詞“买”“看”には結果補語が付けないと考えてしまうということなのであろう。このような表現上の日本語とのズレには十分な注意が必要である。

日本語の動詞が多く結果まで語彙的意味に含められることは，

見たが見えなかった。

という表現に成立しにくいことからわかる。中国語では，同じ意味を表す次の表現は成立する。

看了，没有看见。(見た，だけど，見えなかった。)

このような文の日本語訳としては，「見ようとしたが，見えなかった」という「試行」のように訳す方が相応しいのかも知れない。

#### 4. 「結果補語」が表現の中心

動詞が結果補語を伴う形式において，述語の動詞は，結果をもたらす原因を示す動作や行為であり，表現の中心は「結果補語」の部分である。結果補語を伴う動補構造の否定には条件文以外では“没有”が用いられるが，述語動詞を否定するのではなく，補語が表す「結果」を否定することでも明らかであろう。例えば，

・我没有听明白你的意思。(私は君の言う意味が聞いて分かりませんでした。)

・哥哥还没有找到工作呢。(兄はまだ仕事が見つかっていません。)

以上の2例で，それぞれの述語動詞“听”，“找”は否定されず，結果補語の“明白”，“到”が否定され，「(聞いたが)分からなかった」，「(探しているが)成就していない」という意味となる。

この表現の中心となる結果補語にはどのような語が使われるのか。また，述語動詞との組み合わせはどうか。結果補語となるのは自動詞と形容詞であり，その範囲について，刘月华(2001)<sup>6)</sup>は

只有形容词和动词可以作结果补语。由于结果补语是口语中较常见的一种语法现象，所以口语中常用的单音节形容词一般都可以作结果补语，部分口语中常用的双音节形容词也能作结果补语。动词可以作补语的比较少，常见的有：见、成、懂、走、跑、哭、笑、往、掉、着、倒、翻、作、为、死、透、丢、到、在、给等。

形容詞と動詞のみが結果補語になることができる。結果補語は，口語でよく見られる文法現象であるから口語でよく使われる単音節形容詞は，普通すべて結果補語となれるし，口語で常用される一部の二音節の形容詞も結果補語になることができる。動詞で結果補語になるものは比較的少なく，よく見かけるのは，

見、成、懂、走、跑、哭、笑、往、掉、着、倒、翻、作、为、死、透、丢、到、在、给などである。

石村（2011）は、刘月华（2001）が挙げている動詞以外に，“病”，“疯”，“穿”を挙げて、さらに王玲玲（2001）からの引用として、使用頻度の高い199個の結果補語のうち、他動詞（多項動詞）は“成”，“丢”，“懂”，“会”，“怕”，“赔”，“输”，“习惯”，“赢”の9種類のみである、と述べている<sup>7)</sup>。

これら結果補語となる動詞や形容詞と述語動詞の結合の組み合わせについては、朱德熙（1982）では、述語動詞と結果補語の組み合わせについては、例を挙げて極めて自由と述べている。<sup>8)</sup>

我们可以说述补结构是一种临时创造新动词的语法手段。尤其值得注意的是述语和补语的组合是极其自由的。例如“洗干净”是常说的，因为“洗”能导致的最自然的结果是干净。可是除了“洗干净”以外，也能说“洗脏、洗破、洗丢”，甚至还可以说“把我洗糊涂了”“把我洗哭了”。

我々は、述補構造は新しい動詞を創造する臨時的な文法手段と考えてもよい。特に注意に値するのは、述後と補語の組み合わせが極めて自由であるということである。例えば、“洗干净”はよく口にする語句である、というのは、“洗”がもたらす最も自然な結果は“干净”だからである。しかし、“洗干净”の他に、“洗脏、洗破、洗丢”と言うこともでき、さらには“把我洗糊涂了”“把我洗哭了”と言うこともできる。

述語動詞と結果補語の組み合わせが自由であったとしても、述語動詞と結果補語となる動詞或いは形容詞をまったく自由に組み合わせることはできない。例えば、“吃到”や“吃干净”は成立しても“吃见”や“吃清楚”は成立しない。つまり、述語動詞の表す動作・行為が原因となって、補語が表す結果が生じるという関係が成り立たなければ結合しないということである。言い換えれば、一般的には、朱德熙（1982）が“导致的最自然的结果”と述べるように、原因となる動作・行為と補語間の因果関係に矛盾が生じない範囲で結合することになる。

しかし、因果関係が正当かどうかを判断するのは、動詞や形容詞の語彙的な意味だけかというと実はそうではない。そこには、その言語を母語として使用する人々の思考法、習慣や生活経験が大いに影響する。外国人学習者にとって理解、運用が難しい所以がここにある。まさしく先に挙げた“\*学懂”がこの類になるであろう。

結果補語を正しく理解し運用するためには、語彙の意味用法のみではなく、多くの実例や経験を経て慣れることも重要な学習法であろう。

## 5. おわりに

結果補語の教授について、特に初級段階の学習者に対しては、中国語の動詞のほとんどが結果義を含まないことから、結果補語は他の補語と比較して多用されることを強調し、



1. 結果補語は、動作の仕手、受け手、動作・行為自身の結果を補足する。
2. 結果補語は、そのほとんどが自動詞、単音節形容詞である。
  - ・その動詞或いは形容詞が補語として表す意味は、具体的（実）から抽象的（虚）まで幅がある。
  - ・述語動詞と結果補語となる動詞或いは形容詞は、原因となる動作・行為と結果が矛盾しない範囲で結合するが、その結合の許容は、中国語を母語とする人の思考・習慣や生活経験に依ることが多い。

という点に触れ、併せてより多くの実例を示し中国語を母語とする人の発想法や習慣を理解するよう指導することが相応しいであろう。

教学上、結果補語に関わることは、以上の他にも、結果補語が用いられる場合の主語の特徴、意図のか否かなど等多数の問題がある。これらを含め、授業では中国語の補語を「いかに、どこまで」教えるかという点を今後も検討したい。

## 注

- 1) 刘月华 (2001) には形容詞の種類と例文が挙げられている。  
 “大、小、快、慢、肥、瘦、轻、重、咸、淡、长、短、多、少、粗、细、宽、窄、高、低”等  
 形容词做结果补语时，有时表示不合某一标准：  
 今天上课我来晚了。(与“应到的时间”相比)  
 (今日の授業に私は遅れてしまった。(当然到着しているべき時刻と比べて))  
 这件衣服做大了。(与“合适的尺寸”相比)  
 (この服は作った結果大きくなってしまった。(適切なサイズに比べて))
- 2) 安本 (2009) 「第二章結果性補語の生成条件」参照
- 3) 刘月华 (2001) p534 「第一节 结果补语」参照
- 4) 黄春玉 (2011) では、次の例を挙げ、中国語の動詞は稼働期間成分と共起できず、結果補語の付加が必要であるとし、“这本书我到处托人买”は“买”という動作が始まって継続していることを意味し、このように動作の過程が強調される場合は、稼働期間成分と動詞が共起しないのと同じように結果補語の付加を必要としている。  
 \*我花5分钟贴了广告画。  
 我花5分钟就贴上了广告画。
- 5) 杨德峰 (2008) p 184 第六節参照
- 6) 刘月华 (2001) p 538 頁
- 7) 石村 (2011) p 18 頁
- 8) 朱德熙 (1982) p 127 頁

## 主な参考文献

- 朱德熙 『语法讲义』 北京 商務印書館 1982年
- 刘月华他 『实用现代汉语语法』 北京 商務印書館 2001年
- 荒川清秀 『一步すすんだ中国語文法』 大修館書店 2003年
- 石村広 『中国語結果構文の研究 — 動詞連続構造の観点から』 白帝社 2011年
- 安本真弓 『現代中国語における可能表現の意味分析 — 可能補語を中心に』 白帝社 2009年
- 黄春玉 『关于结果补语句的中日比较研究 結果補語表現に関する中日対照研究』 上海 上海訳文出版社 2011年
- 杨德峰 『日本人学汉语常见语法错误释疑』 北京 商務印書館 2008年
- 姚艷玲 「日本人中国語学習者による『補語』の習得に関する横断的研究」 『中国語教育』 第7号 2009年
- 姚艷玲 「日本人中国語学習者による『補語』表現の習得研究」 『中国語教育』 第8号 2010年